



講師の若新さんから突きつけられた3つの大きな価値観の転換に、困惑した表情が多く見受けられました。



参加者は受付でくじをひき、参加グループを決めました。



受付後にインスタント写真をとり、顔写真付き名簿をその場で作成。



斬新な問いかけをしてくださった若新雄純さん。



UNDER35のチームリーダーの西尾祥之さん。愛媛県本部の若き書記長です。



UNDER35企画ということで、進行も大分県本部の仲正恵さんが担当。

UNDER35: 企画 JK課 × 自治研 = ゆるプロ

多くの、頭の整理が大変だったようです。従来型の公務員像とは正反対の斬新な問題提起を突きつけられた参加者のグループに分かれて議論しました。

その後 ①教える ↓ 教えない、②成果 ↓ 変化、③かたい ↓ ゆるいという3つの大きな価値観の転換について、

ページを「ご覧ください」。

JK課プロデューサーの若新雄純さん（慶應義塾大学大学院特任助教）から、鯖江市役所JK課での活動からみえてきた、市民との協働を進めるために求められる公務員像についてのお話をうかがいました。講演の詳細は本誌16ページをご覧ください。

ゆるい公務員
「わからない」と言えるか

第1日（10月10日）…ワークショップ

2015年10月10日～12日、若い組合員（おおむね35歳以下というゆるしいしほり）を中心に、総勢28名の参加者が、福井県鯖江市のユニークな試み「鯖江市役所JK課」を体感し、これからの公務員のあり方や地域でのまちづくりについて、ゆるく、考えました。



MADE IN JAPAN の眼鏡フレームの9割以上のシェアを誇る鯖江市。その鯖江市有数の観光スポットである「めがねミュージアム」にも多くのグループが訪れました。



鯖江市自慢のスイーツを買って消費とPRに貢献!



動物園の維持管理のための募金に協力します。



公共トイレにハートを! 皆でトイレレットペーパーをハートに折りました。



骨董市で出会ったレッサーパンダの着ぐるみと記念撮影。



効果(硬貨)絶大!? やってみました、東日本豪雨募金&マッサージ。



J K課メンバーたちと鯖江市の街中に繰り出しました。アイスブレイクで作成した“耳”をつけたままのグループも。



初代J K課メンバー「みどりん」。アイスブレイクの進行をしてくれました。



J K課担当の鯖江市役所の高橋さん。保護者や学校との信頼関係を第一に高校生と向き合っています。



牧野百男鯖江市長が鯖江市のめざすまちづくりを熱く語っていただきました。

鯖江市の女子高生によるまちづくりプロジェクト「鯖江市役所J K課」のポイントは、①まちづくりに興味のない「ゆるい市民(女子高生)」を中心に据えていること、②誰かが教えるのではなく「ともに創る」こと、③彼女たちに教えるのではなく、大人側に「変化を起こす」ことです。

J K課インターンにおける課題は、「鯖江のまちに、ひとついいことをする」というたった1点だけ。その規模や成果の大小も関係なし! J K課や鯖江市の市民団体メンバーなどを交えた総勢100人が7つのグループに分かれ、鯖江市内を心の赴くまま、自由に歩き回りました。最初、J K課メンバーとの距離感に戸惑っていた参加者も、徐々に会話が弾み、「ゆるい市民」との接し方を肌で感じたことで、市民協働の本質に触れ、初日のモヤモヤ感が晴れていったようです。

同時多発J K!

第2日(10月11日) J K課インターン



越前建設ナノブロック課課長の石本雄祐さんが持参した地元愛あふれる作品に、歓声があがっていました。



“越前まちづくり三銃士”が参加し、それぞれの活動を楽しく紹介してくれました。



地元紙「県民福井」の1面トップにカラーで「ゆるプロ」が紹介されました。

第3回(10月12日)・・・ワークショップ
これからに向けて

初日の講演、2日目のJK課インタビューを経て、感じたことなどを率直に語り合いました。これまでの個々人の経験の違いから、多様な意見が出されました。

ワークショップ後半では、趣味・ボランティアでまちづくりを楽しんでいる越前市役所勤務の3名のゲストの話(彼らの活動については、『月刊自治研』2015年4月号を「ご覧ください」)も聞き、まちづくりや市民協働は、自分が楽しくないとダメなんだという感想も出されました。地元に戻ってからやってみることが、少しずつ見えてきた参加者も少なくなかったようです。

このUNDER35の活動は、来年10月の宮城自治研に向けて動き始めます。あなたも「ゆるく」つながってみませんか？